

	発行者の略号	東書	教図
	書名	新編 新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して	新 技術・家庭 家庭分野 暮らしを創造する
（ア） 教科・種目に共通な観点	①編集の趣旨と工夫	各編は、「編の導入」→「基本ページ」→「学習のまとめ」の構成で統一され、実習例や資料はその構成の中で適切に取り上げられている。	小学校からのつながりや、他教科への広がりなども意識されており、より深い学びが実現できるよう工夫されている。
	（7）教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第49条・第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	①必ず身に付けさせたい基礎的な技能を「いつも確かめよう」にまとめたり、QRコンテンツを充実させたりし、技能を確実に習得できるようにしている。また、技能の習得のために、基礎技能を用いてできる実習例や、難易度の低い実習例を取り上げている。 ②調理実習、布を用いた製作、幼児との触れ合い体験では、実習の手順や流れを示し、見通しをもって実習に取り組むことができるように工夫されている。 ③「1編 未来につながる家庭分野」の「家庭分野のガイダンス」及び各編の導入では、見方・考え方について例示し、生活の営みに係る見方・考え方からよりよい生活を創ろうとする態度を身に付けることができるように工夫されている。	①各章の終わりには知識を確認する「学習の振り返り」があり、学びが定着する工夫がなされている。 ②「考えてみよう」「話し合ってみよう」など、個人の価値観を問うコーナーがあり、生徒の思考力、判断力を養うことができる。 ③社会の問題を、自分ごととして捉えることができるコラムなどの工夫が数多く示されている。
	（4）市町の方針との関連 ①小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	概ね良い。	概ね良い。
	（ウ）内容と構成 ○中学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ②他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③言語能力の確実な育成 ④伝統や文化に関する教育の充実 ⑤体験活動の充実 ⑥学校段階間の円滑な接続 ⑦情報活用能力の育成 ⑧生徒の学習上の困難さに応じた工夫 ○生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①「主体的・対話的で深い学び」につながる場面として「考えてみよう」「やってみよう」「調べてみよう」などの活動を数多く取り上げ、主体的に調べたり、友達と協働して比較・検討したりするための発問を設けるなど、深い学びが実現できるように工夫されている。 ②「リンク」マークを用いて教科間・学校種間の連携が図られ、教科関連を示す「リンク」にDマークが付いているものはQRコンテンツとして「他教科」「小学校」の関連する内容の教科書紙面を見ることができるよう工夫されている。 ○中学校学習指導要領で示された「教科・分野の目標及び内容」、「指導計画の作成と内容の取扱い」に準拠し、必要かつ十分な内容が適切に扱われている。 ③文章表現は、小中学校の国語指導との関連を図り、発達段階に応じた適切な用語等を用いるとともに、中学校以降で学習する常用漢字には全てふり仮名が付されている。 ④日本や郷土に昔から伝わる食、衣服、住まいを中心に、鮮明な写真とともに多数例示を取り上げ、日本の伝統に誇りや愛着を持ち、継承できるように工夫されている。 ⑤調理や布製作の実習例はさまざまな難易度の題材を取り揃え、幼児との触れ合い体験はさまざまな形式の体験方法を提示し、生徒や学校の実態に応じて選択できるように配慮されている。 ⑥「1編 未来につながる家庭分野」の「家庭分野のガイダンス」で、中学校と小学校の学習内容を見開きで写真とともに提示し、小学校の学習の上に中学校の学習が積み重なっていることが分かる構成になるように工夫されている。 ⑦必要に応じてコンピュータ等の情報手段を適切に用いて情報を得たり、思考ツールなどを活用して情報を整理したり、発信したりできるように例示が取り上げられている。 ⑧生徒の巧緻性に配慮し、作業する手や姿勢の写真などを豊富に掲載するとともに、包丁の使い方や手縫いの内容では、左利きの例も取り上げられている。 ○基本ページでは、「目標」「始めの活動」「まとめの活動」などがすべて同じ位置に配置され、見やすく理解しやすいように工夫されている。	①「話し合ってみよう」「調べてみよう」など、実践的・体験的な活動を通して学ぶことができるワークが多数掲載され、主体的・対話的で深い学びが実現できるように工夫されている。 ②他教科や小学校など、ほかの学習との関連マークで示し、幅広い知識と教養が身に付けられるよう配慮されている。 ○中学校学習指導要領解説（技術・家庭編）で示された「技術・家庭科改訂の趣旨及び要点」に則って内容が組み直されており、「家庭分野の目標及び内容」に沿って製作されている。 ③話し合いやレポートなどの学習において、具体例を示しながら自分の言葉で表現することをサポートする工夫が数多く掲載されている。 ④日本の伝統的な年中行事や、衣食住の生活にかかわる日本の伝統文化を取り上げることで、伝統と文化を尊重し、我が国と郷土を愛する態度を養うことができるよう配慮されている。 ⑤調理実習では、生徒が興味をもちそうな題材が扱われており、目安時間やアレルギー食材、安全や衛生への配慮などがなされている。 ⑥小学校の学習との関連がわかるよう「関連マーク」が掲載されている。 ⑦資料の出典などが的確に示されており、生徒が自ら情報を探して学びを深められるよう配慮されている。 ⑧ユニバーサルデザインのフォントを使用し、カラーユニバーサルデザインにも配慮されており、誰にでも読みやすい教科書となっている。文字や行間などのサイズも適切である。 ○終末のまとめの「学習のふり振り返り」では、3観点に沿って学習を振り返る問題が掲載されている。
（イ）分量・装丁・表記等 ①各内容の分量とその配分は適切であるか。 ②体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	①各内容の分量は、時数、学期、学年配分等から見て偏りがなく適切である。 ②生徒が意欲的に学習に取り組めるように、イラストや写真、レイアウトを工夫し、楽しい紙面になるよう工夫されている。 ③専門的な用語については、測注や脚注などで、生徒が理解しやすい簡潔な表現で解説が補足されている。	①本文の分量や並びは適切で、本文に沿って必要な図表や写真等が適切に配分、構成されている。また、学びを助ける効果的なイラストも活用され、理解しやすい。 ②教科書本文は見開きで展開されており、「見つめる」から「見つめてみよう」「学ぶ（本文）」「振り返る」と整然と配置されており、生徒が混乱しないようなレイアウトになっている。 ③図表や系統資料などには出典や出所が明記されており、より深い学びにも結び付くようになっている。	
（イ） 教科・種目別の観点	①実践的・体験的な活動を通して、基礎的な知識及び技能の習得やそれらを生かした思考力・判断力・表現力等の育成を図るための工夫や配慮がなされているか。	①多様な実習例を数多く取り上げ、学校の実態や生徒の個性に応じた実践的・体験的な学習活動が行えるように工夫されている。	①布を使った製作では、基礎的な題材から防災を意識した題材まで幅広く扱われており、アレンジ方法なども示されているので、生活に生かしやすい。
	「技術の見方・考え方」や「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせた学習となるよう、内容構成に工夫や配慮がなされているか。	②各編の導入において、関連する見方・考え方をキーワードで例示し、多角的な視点から考えたり、判断し決定したりして、楽しみながら問題解決に取り組めるように工夫されている。	②問題解決的な学習ができる「学びを生かそう」のページでは、見方・考え方の視点に沿って知識や技能を振り返ることができるコーナーがあり、生徒が見方・考え方を意識しながら課題の解決に取り組めるよう配慮されている。
	③既存の技術の理解を図る学習過程や、生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し解決する力を養う学習過程が取り上げられているか。	③「課題の設定→計画→実践→振り返り、評価→改善→次の課題への挑戦」といった問題解決のプロセスを巻頭のWarm upで丁寧に説明するとともに、生活の課題と実践ではより具体的に解説して、生活の中で自ら問題解決に取り組むことができるように工夫されている。	③生徒が問題を発見し、課題を解決する活動例を多数取り上げて手順をわかりやすく示しており、生徒が無理なく問題発見・課題解決力を育成できるよう配慮されている。

	発行者の略号	開隆堂	
	書名	技術・家庭 家庭分野 自立しともに支えあう生活へ	
（ア） 教科・種目に共通な観点	①編集の趣旨と工夫	①基礎的・基本的な知識・技能を適切に習得できるように配列が工夫されている。地域や学校事情等によって順序の組み換えがしやすくなるように工夫している。	
	（フ）教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第49条・第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	①学習で習得した知識及び技能などを実生活で活用するために、「生活の課題と実践」として多様な課題が豊富に設定され、実践的な活動が家庭や地域などで行える。 ②学習のまとまりごとに「学習のまとめ」があり、学習の自己評価ができるとともに、身についた知識や技能などを生活にいかすことのできる仕組みになっている。 ③生徒同士で対話をしたり意見を交換できるような学習活動（アクティブ・ラーニング）を多数取り入れており、生徒同士や家族・身近な人たちとの会話なども通して考えを明確にするなど、生徒自らの考えを広げて深められるような仕組みになっている。	
	（イ）市町の方針との関連 ①小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	概ね良い。	
	（ク）内容と構成 ○ 中学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ②他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③言語能力の確実な育成 ④伝統や文化に関する教育の充実 ⑤体験活動の充実 ⑥学校段階間の円滑な接続 ⑦情報活用能力の育成 ⑧生徒の学習上の困難さに応じた工夫 ○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	○ 学習指導要領の内容 A・B・C を関連付けて学習できるように工夫した構成で、無理なく基礎・基本をおさえた学習ができるように、適切な配慮をしている。 ①実践的・体験的活動を通して、話し合いの活動や思考する活動、意見を述べる活動などさまざまな言語活動ができるように設定されており、学んだ知識や技能を生活にいかす際に工夫する能力につながっている。 ②他教科や技術分野と関連するページには、「他教科・他分野との関連マーク」をつけて具体的事項を示している。 ③中学校で学習する漢字については、見開きページごとの初出箇所にはふりがなをつけている。 ④衣食住などの内容を関連させ、日本の伝統的な文化に関する内容が多数掲載されている。また、伝統文化を紹介している箇所には「伝統文化マーク」を付けている。 ⑤「中学生に必要な栄養素を満たす食事」の学習が実感を伴って理解できるように「食べものは体の中でどうなるのかみてみよう」で栄養素のゆくえの図化や「1日に取りたい食品と分量」を実物大写真で示したり、実験例で目に見えない栄養素を視覚的に示すなどの工夫をしている。 ⑥小学校の学習と関連する項目に「小学校との関連マーク」を設け、小学校で学んだ学習を振り返り、中学校の学習にいかせるようになっている。また、高等学校に関連が深い内容には、「発展」として扱われている。 ⑦項目や、実習・製作の頁に二次元コードを記載することによって生徒がより主体的に学習に取り組めるように工夫している。 ⑧中学生キャラクターや、学習案内キャラクターを活用して、学習に取り組むやすいように工夫している。 ○ 生徒が関心や意欲をもって主体的に楽しく学習を進められるように、目立ちやすいマークが効果的に用いられている。	
（イ）分量・装丁・表記等 ① 各内容の分量とその配分は適切であるか。 ② 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	①各内容、各項目に配当する授業数に応じて、分量を適切に配列している。 ②本文と図表・写真の関係がわかりやすい配置になっている。 ③重要語句は太文字（ゴシック体）にして、表記のメリハリをつけている。		
（イ） 教科・種目別の観点	①実践的・体験的な活動を通して、基礎的な知識及び技能の習得やそれらを生かした思考力・判断力・表現力等の育成を図るための工夫や配慮がなされているか。	①調理や製作などの実習手順図は、生徒の視線の流れ、特別支援教育を考慮して見開きページをつかって横に流れる記述で、基礎・基本を習得するための適切な配慮をしている。	
	②「技術の見方・考え方」や「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせた学習となるよう、内容構成に工夫や配慮がなされているか。	②生活の営みに係る見方・考え方についてガイダンスで具体的に示され、かつ教科書全体に貫かれており、一連の学習過程の中で「生活の営みに係る見方・考え方」をはたらかせることのできる構成になっている。	
	③既存の技術の理解を図る学習過程や、生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し解決する力を養う学習過程が取り上げられているか。	③生徒の日常生活の中から問題を見出し、課題を設定することができるように、ヒントを掲示し、主体的にさまざまな解決方法を考える手立てが示されている。	